

平成23年10月8日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(特活) 国際ボランティアセンター山形 (IVY)
(NGO 相談員氏名) 安達三千代

NGO 相談員による出張サービス実施報告

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので御報告致します。

1. 企画名：【形態：イベント・セミナー】 せんだい「地球フェスタ」2011
2. 出張者氏名：(正) 安達三千代 (副) 阿部眞理子
3. 協力団体名／依頼元団体名：せんだい地球フェスタ実行委員会
4. 実施日時：平成23年9月23日(金) 10:00～16:00
5. 実施場所：仙台国際センター 仙台市青葉区青葉山(番地はありません)
6. 実施概要及び対象者：
実施概要：仙台国際交流協会が主体となり、国際協力、国際交流、外国籍市民団体や多文化共生団体等が一堂に会して「せんだい地球フェスタ」を開催。IVYでは、(1) ブースの出展 (2) 報告会を行った。
対象者：来場者 仙台市民 3,800名

7、 内容：

(1) ブース出展

今回の地球フェスタに於いては、

- ① 震災支援活動「キャッシュ・フォー・ワーク」活動紹介
石巻、気仙沼チームのスタッフも参加し、来場者に被災した際の状況、キャッシュ・フォー・ワークのこれまでの活動内容等について、説明を行った。
- ② IVYyouth「カンボジア算数教育支援プロジェクト」活動紹介
大学生を中心とするユースチームがカンボジアの小学生向けに算数ドリルを作成し、学校に寄贈する活動を昨年から行っている。今年の夏に学生が使用状況の調査や成果、配布先の学校の選定などを行ってきた。クメール語の算数問題を来場者に解いてもらい、自分たちの活動紹介を行った。

(2) 報告会

上記2つの活動について、映像を用いながら、前半はユース、後半は震災支援についての報告会を行った。参加者からは、カンボジアの学校制度に関することや、被災地における雇用についての質問が寄せられた。

所感：今年は東北大地震の影響で仙台市も被災したため、開催が危ぶまれたが、各国からの支援に対する感謝の気持ちを伝えることをテーマに、震災から半年が経った9月23日に行われた。

参加団体数は例年と同じ規模であったが、来場者数は昨年より1000人以上少なかった。が、その分ブースにおいてもやり取りがゆっくり出来たという声も聞かれた。

カンボジア算数プロジェクトには、大学生を中心に来場者やボランティアが訪れ、カンボジアの教育の現状についての質問や、クメール数字の算数問題に取り組んでいた。

また IVY の震災支援地と同じ宮城県内での開催であったこともあり、実家が気仙沼や石巻だという方が立ち寄り、キャッシュ・フォー・ワークの事業や現地の状況などについて、現地スタッフから説明を受けたり、自分の実家の被災状況などを語り合う場面も見られた。

以上



来場者に国際協力について説明



ブースの様



報告会の告知をして会場を歩く！



報告会の様子



IVY ブースの展示

せんだい地球フェスタ 2011 における出張サービス 報告書

実施団体：開発教育協会（出張者・西 あい）

日時：2011年9月23日 10:00～16:00（準備時間除く）

場所：仙台国際センター（仙台市青葉区青葉山）

依頼元：（財）仙台国際交流協会

実施内容：相談応対（ブース出展）、ワークショップ

「せんだい地球フェスタ 2011」においてブースを設置し、国際協力・国際交流に関心のある一般市民、教員、学生、NGO 関係者などの来場者に、相談業務を行なった。また、「食」をテーマとした開発教育のワークショップを実施した。相談件数、ワークショップ参加者ともそれぞれ 20 弱であった。授業の材料を探しに来る地元教員からの相談、参加がもっとも多かった。相談内容は、国際協力に関する授業の進め方や教材、学生からの卒論に関連した国際協力団体の情報源、そもそも国際協力や開発教育にはどういった活動があるのか、といったことが中心だった。ワークショップは、誰もが話やすい「食」がテーマだったこともあって、活発に意見交換されていた。「皆で考えて話し合うことで、自分では思いつかないような意見をたくさん聞けた」「世界のことも身近な視点から話し合えた」などの感想が出された。

所感および効果：

国際協力の大規模イベントとしては、この地域では東日本大震災後ほとんど初めての実施と言って良く、また前日は台風上陸のため交通機関にも乱れが出るなど、開始前から来場者の減少が懸念されていた。当日主催者に伺ったところ、前年と比べ半数程度の来場者ではないかとのことだった。相談件数やワークショップ参加者がそれほど多くなかったのは残念であるが、来場者・参加者は国際協力や開発教育への実践への意識が非常に高かったという印象があった。イベントのテーマが震災と関連して「世界中の友達へありがとう」だったこともあってか、国際協力への意識が比較的強かったと感じられた。

ワークショップでは、NGO 関係者・ボランティアや教員、学生が参加したが、国際協力に関する講演会や報告会には参加したことがあるが「こうしたワークショップに初めて参加した」という方もいた。また、学校の立地や状況によっては震災後全く開発教育の授業ができずにいたが、「これを機会に今後は震災前のように積極的に取り組みたい」と熱心に話す教員もいて、ワークショップ実施の意義はあったのではないかとと思われる。

（以上）



平成 23 年 10 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) (特活) 横浜 NGO 連絡会

NGO 相談員による出張サービス実施企画について

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり企画実施いたしましたので報告いたします。

記

1 団体名

(特活) 横浜 NGO 連絡会

2 出張サービス企画名

平成 23 年度秋募集 「体験談&説明会」

シニア海外ボランティア： 10 時 30 分～12 時 30 分

青年海外協力隊： 14 時 30 分～16 時 30 分

3 実施日時

平成 23 年 9 月 25 日 (日) 10 時 30 分～12 時 30 分 および 14 時 30 分～16 時 30 分

4 場所

JICA 横浜

5 実施内容

*会場：JICA 横浜の地階体育館。会場正面に向かって左側壁面前に JICA によるボランティア募集相談コーナーに隣接する形で NGO 相談デスクを設置。

*相談時間：プログラム進行中随時およびプログラム終了後から閉場までの時間。

*相談体制：出張相談員枠として相談員 1 名 (小俣典之)

団体独自の応援職員 1 名 (飯田信子)

6 集客人数または相談対応件数

会場来場者概数： シニア海外ボランティア：約 70 名、 青年海外協力隊： 約 100 名

相談対応件数： 14 件 (内訳) シニア海外ボランティア：4 名

青年海外協力隊：10 名

7 所感及び効果等

2011 年 5 月 22 日(日)に開催された JICA ボランティア説明会でも今回と同様の出張相談を実施した。この時の募集説明会は、東日本大震災の影響により開催回数を 1 回のみとするなどの特別対応がなされていたが、参加者は通常よりもかなり少なかった。以後、4 ヶ月を経て開催された今回の募集説明会は参加者数も回復基調にあると感じさせられるものであった。応募者の心理面や社会的な影響も変化しつつあるものと思われる。

相談者数は合計 14 件であり、前回 5 月の 6 件に比較して倍増した。これは、来場者数全体の増加が理由と考えられるが、プログラムの進行中に司会者から複数回に渡り、NGO 相談コーナーの設置と相談を受けることを勧めるアナウンスを入れてくれたことも後押ししたものと思われた。JICA/JOCCA の両

機関には、NGO 相談制度についてのご理解いただき、積極的な協力をしていただけたことに深く感謝したい。

NGO 相談への関心は、シニア海外ボランティア応募者よりも青年海外協力隊応募者の方が顕著に高いという前回までの傾向は今回も同様であった。青年海外協力隊応募者の中には、NGO への就職や NGO でのボランティア活動も視野に入れている人が相当数おり、特にそうした層に対してのサービス提供が実施できたと思われる。今回、青年海外協力隊への応募について OB・OG による個別相談を受けたところ協力隊に参加するよりも NGO の方が合っていると協力隊参加へのミスマッチを指摘されたとのことで相談に来た人もいた。一方、国際協力ボランティアを通して生き方自体を模索しているタイプ、あるいはメンタル的な課題を抱えていると推察される若者も一定の割合でおり、そうしたケースには、国際協力で携わる人材育成的な観点から相談対応を実施した。このように JICA ボランティア説明会での NGO 相談の実施は、NGO の特性を活かしたサービス提供の観点から大きな意義があるものであると今回も改めて感じた。

なお、今回の NGO 相談の実施結果については、2011 年 10 月 3 日に開催した「横浜 NGO 連絡会-JICA 横浜定例会」（月 1 回定期開催）の中で議案に挙げ JICA 横浜側との情報共有を図ると共に今後の連携について確認をした。

8 写真資料





以上

平成 23 年 10 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
山上 正道

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名 : 「2011 国際交流フェア」における相談対応サービス
2. 形態 : 相談対応サービス
3. 主催団体名 : 財団法人松江市国際交流協会
4. 実施場所 : スティックビル (市民活動センター)、天神町商店街
5. 実施日時 : 平成 23 年 9 月 25 日 (日) 10 時 00 分 ~ 15 時 00 分
6. 出張者氏名 : 山上正道
7. 実施内容 :
「2011 国際交流フェア」会場内に NGO 相談ブースを設置し、来場者に対する相談対応サービスを実施した。
スティックビルの 1, 2 階及び、近隣にある天神町商店街を使用した国際交流イベントで、20 団体が展示、物販、食品販売やパレードを行った。スティックビル 1 階展示コーナーにて NGO 相談ブースを設置し、相談サービスを行い、23 件の相談に対応ができた。
8. 所感・効果
本イベントは島根県を中心に活動する国際交流・協力団体と地元商店街の共催で開催され、主催者発表の来場者数は約 1,000 人であった。規模的には大きいイベントとは

言えないが、商店街との共催であることから、地元に着した印象があった。

県内から参加した団体は国際交流に関する活動が主流で、国際協力関連としては、青年海外協力隊の帰国隊員による活動が中心であったことから、NGO による相談サービスは効果が高かったと考える。今回の相談内容については、東日本大震災に関する質問が多く、その次にはスタディツアー、ホームステイなど、現地への訪問に関する質問が多かった。

相談者からは、インターネットなどの情報収集とは異なり、対話式で情報を得ることができてよかったとのコメントもいただいた。

NGO やその活動について、実例に基づいた具体的な情報を得ていただけたものとする。

9. 写真資料



会場の様子（スティックビル内）



会場の様子（スティックビル内）



NGO 相談員コーナー



多国籍屋台が出展した天神町商店街

以上